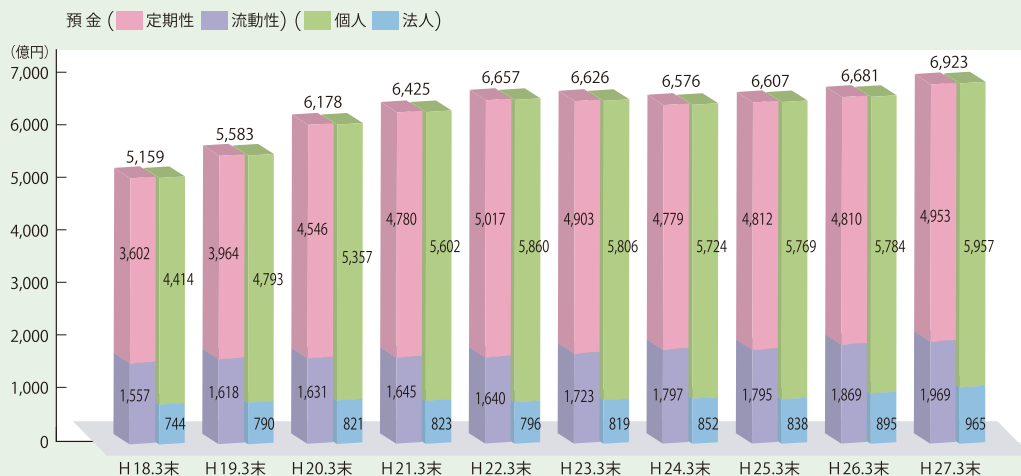


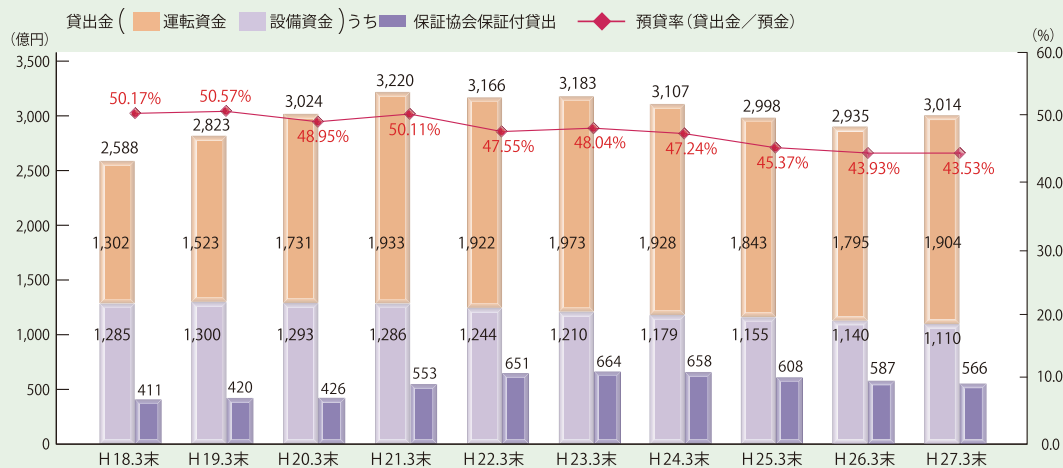
## ● 預 金



平成27年3月末の預金残高は6,923億円となり、前期末比242億円の増加となりました。期末預金残高は過去最高を更新しています。増加の内訳は定期性預金143億円、流動性預金99億円となっています。伸び率で見ると定期性預金3.0%、流動性預金5.4%で、流動性預金の伸び率が大きくなっています。これは多くのお客様に日常生活口座としてご利用いただけた結果であると考えています。今後もお気軽にご利用いただけるよう取り組んでまいります。

なお、平成27年3月末の預金は、全国267信用金庫中第51位、兵庫県下11信用金庫中第4位となっています。

## ● 貸出金と預貸率

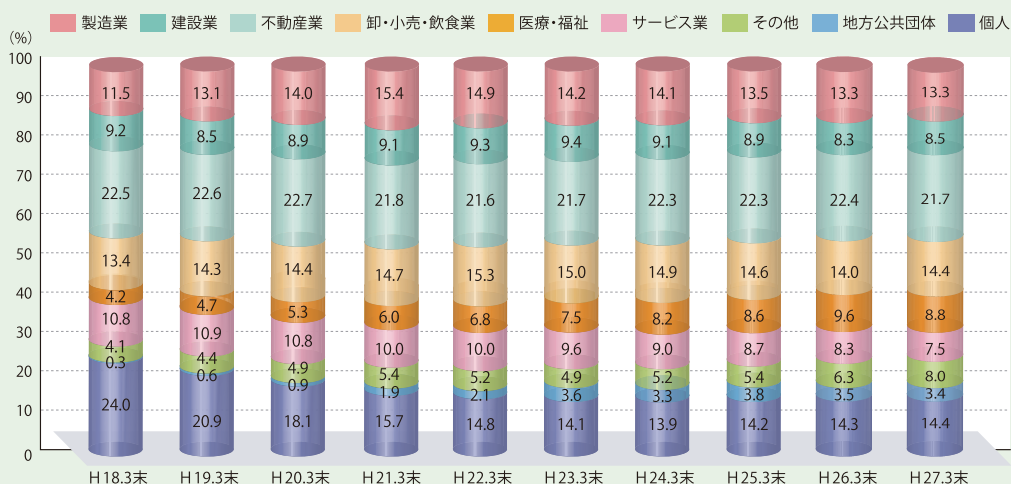


貸出金は平成23年3月期以降每期減少傾向にありましたが、平成27年3月期は3期ぶりに3,000億円台を回復しました。

兵庫県内の経済情勢は持ち直しつつあるものの、企業の景況感は依然低い水準を示しており、設備資金をはじめとした前向きな資金需要において、その力強さに欠けているのが現状です。

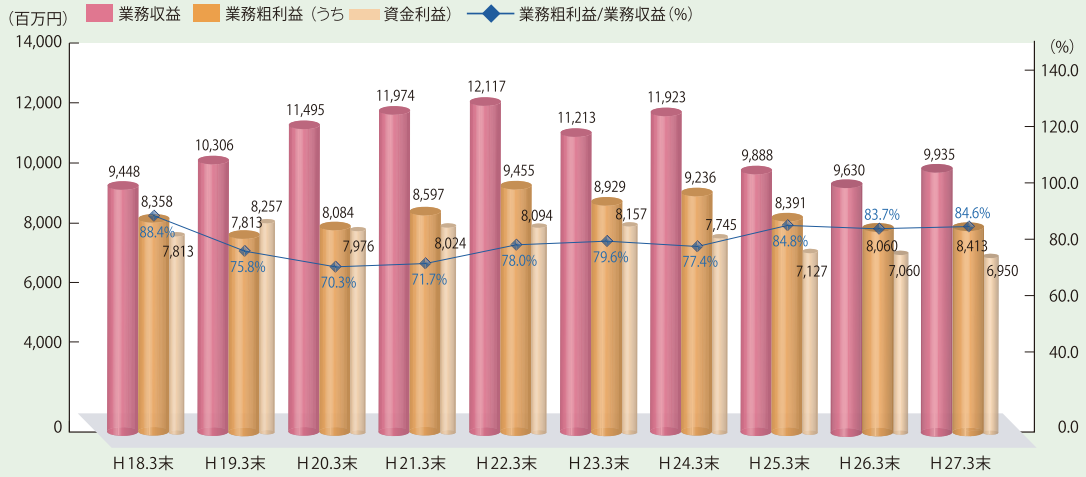
今後も、地域活性化のための的確な資金提供に努めてまいります。

## ● 貸出金の業種別構成比の推移



貸出金の業種別構成比をみると、不動産業、卸売・小売・飲食業、製造業、医療・福祉の順となっており、建設業の比率が4期ぶりに増加しています。また、長らく減少傾向にあった製造業の比率は、国内景気が回復基調にあることや国の補助金制度などの拡充を背景に下げ止まっています。個人向け貸出金については、住宅ローンを中心とした営業活動の強化を継続した結果、3期連続の上昇基調を維持しています。

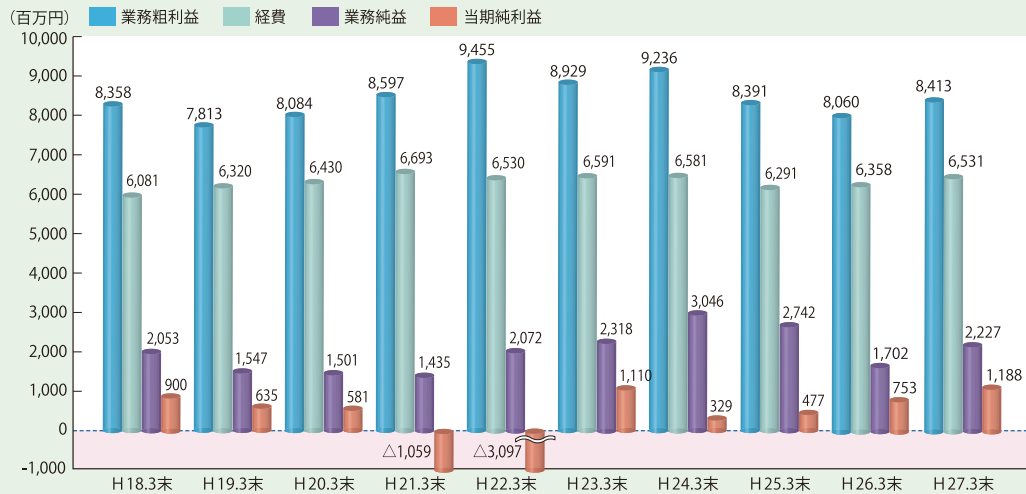
## ● 業務収益、業務粗利益（うち資金利益）



一般企業の売上げに当たる業務収益（貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等）は、前年度に比べ305百万円増加しました。資金利益は貸出金と預け金の利回り低下により110百万円減少しましたが、その他業務収益（有価証券売却益）が増加したことから、業務粗利益（業務収益－預金利息等の原価）は352百万円増加しました。

## ● 業務粗利益、経費、業務純益（業務粗利益－経費等）、当期利益

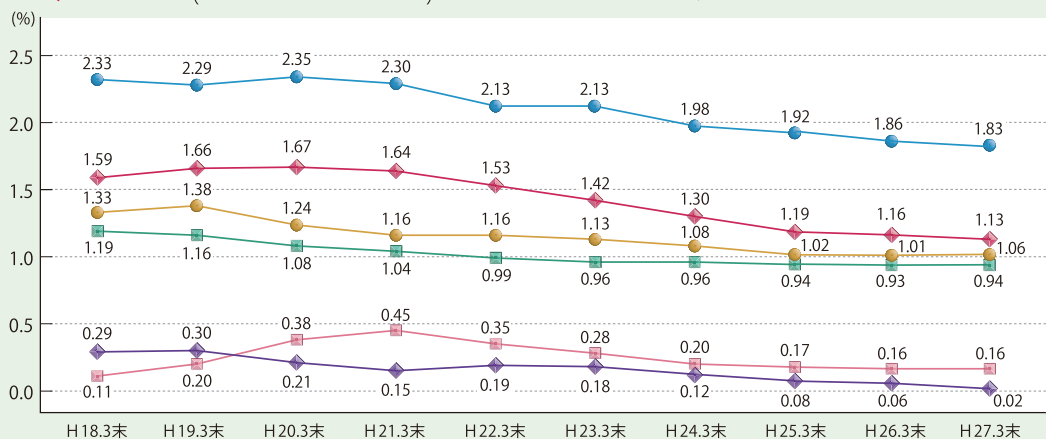
[参考] 業務粗利益－（経費＋一般貸倒引当金繰入額）＝業務純益



経費については、しんきん共同センターへの移行に係る費用が増加したこと等により前年度に比べ172百万円増加しましたが、一般貸倒引当金繰入額が減少したことにより業務純益は525百万円増加しました。また、当期純利益は前年度に比べ435百万円増加の1,188百万円計上することができました。

## ● 資金運用利回（貸出金利回、有価証券利回）、預金利回、経費率、利ざや

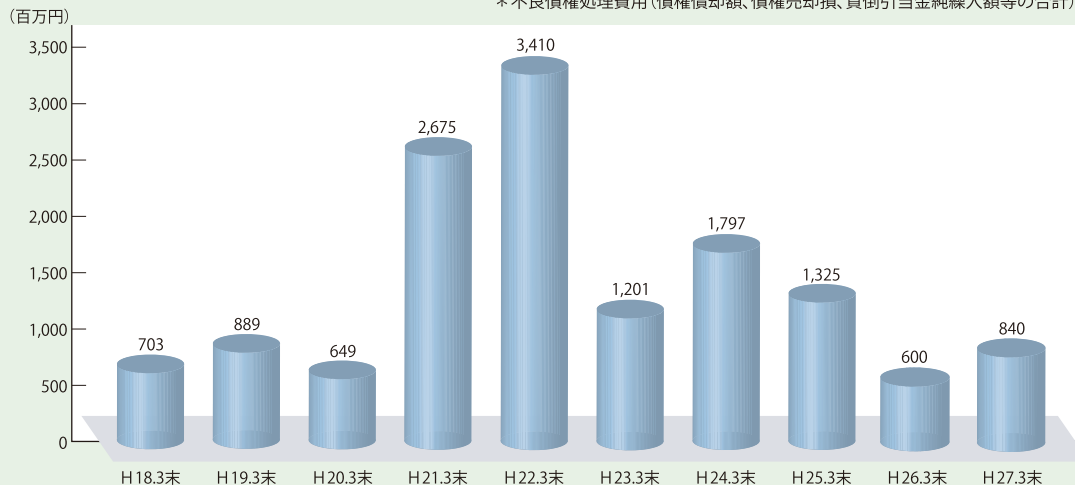
資金運用利回（貸出金利回、有価証券利回） 経費率 預金利回 総資金利ざや＝資金運用利回－（預金利回＋経費率）



有価証券利回りは上昇しましたが、貸出金や預け金の利回り低下が続いており、資金運用利回りは低下しました。預金利回りは、前年度と同水準で推移しましたが、経費が増加したことから、総資金利ざやは縮小しました。

## ●貸出金にかかる不良債権処理費用等

\*不良債権処理費用(債権償却額、債権売却損、貸倒引当金繰入額等の合計)

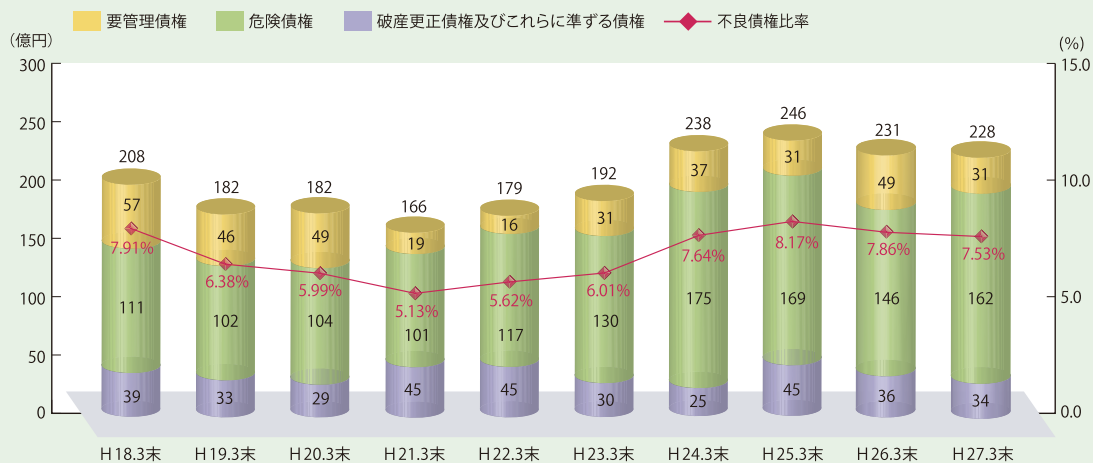


貸出金にかかる不良債権処理費用とは、一般貸倒引当金繰入額、個別貸倒引当金繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失額の合計額です。

平成27年3月期の不良債権処理費用等は前年度に比べ240百万円増加しました。これは、将来のために積極的な引当を実施したことによるものです。

今後も貸出債権の不良化を防ぐため、経営改善支援や融資審査などの強化に全力で取組むと同時に、将来のために引当も十分に行ってまいります。

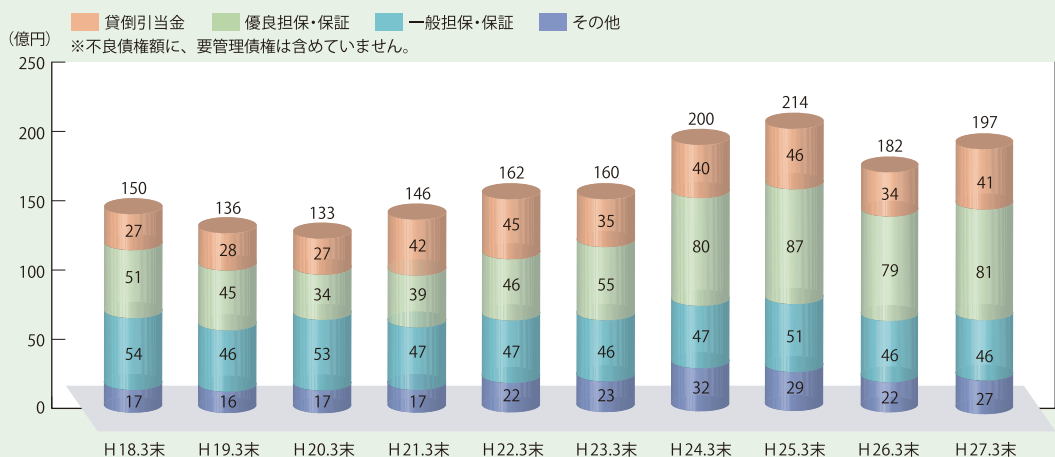
## ●不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率



不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。

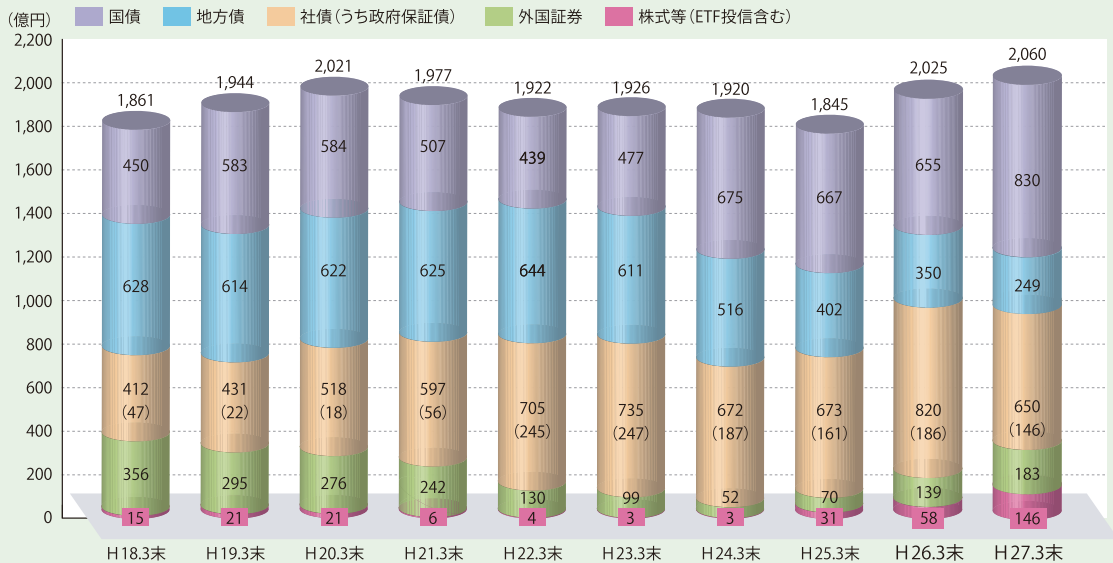
平成27年3月末の不良債権残高は228億円となり、平成26年3月末に比べて3億円減少しました。また、不良債権比率は平成27年3月末は7.53%と26年3月末に比べ0.32ポイント低下しました。これは経営支援活動の積極的な取り組みと不良債権の処理を進めていることによるものです。

## ●不良債権(要管理先を除く)の保全状況



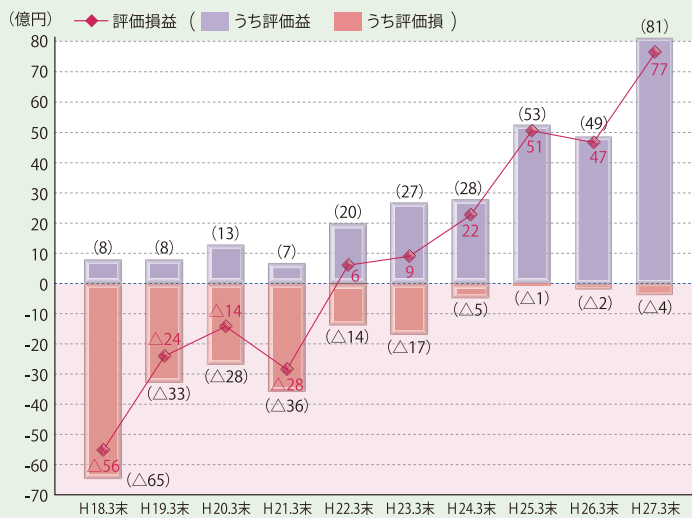
平成27年3月末の不良債権(要管理債権を除く)は197億円ありますが、その保全状況は上の通りです。貸倒引当金は41億円で、会計上41億円は損失処理済です。優良担保・保証(保証協会保証等)で保全されている額が81億円、一般担保(土地・建物等)保証で保全されている額が46億円、合わせて127億円は回収が確実であると見込んでいる額です。残りの27億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。

## ●有価証券の種類別保有状況(期末残高) (時価ベース)



国債、地方債及び政府保証債が有価証券運用の59%を占めており、安全性に配慮した運用を行っています。また、市場金利の低下による利息配当収入の減少を補う目的で、国債より利回りの高い社債にも分散投資しています。外国証券については、金利リスクを回避する目的で主に金利上昇時に利回りが上昇する単純な仕組みの変動利付債に投資しています。また、株式等の残高を増やしていますが、これは金利リスクを回避するため、国内優良銘柄の株式、日経225に連動するETF及びその他投資信託に小口分散投資しています。

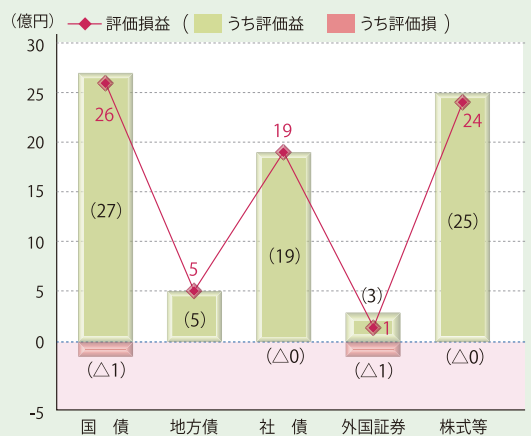
## ●有価証券の評価損益の推移



平成27年3月末現在の有価証券の評価益は81億円、評価損は4億円です。有価証券全体で差引77億円の評価益となっています。

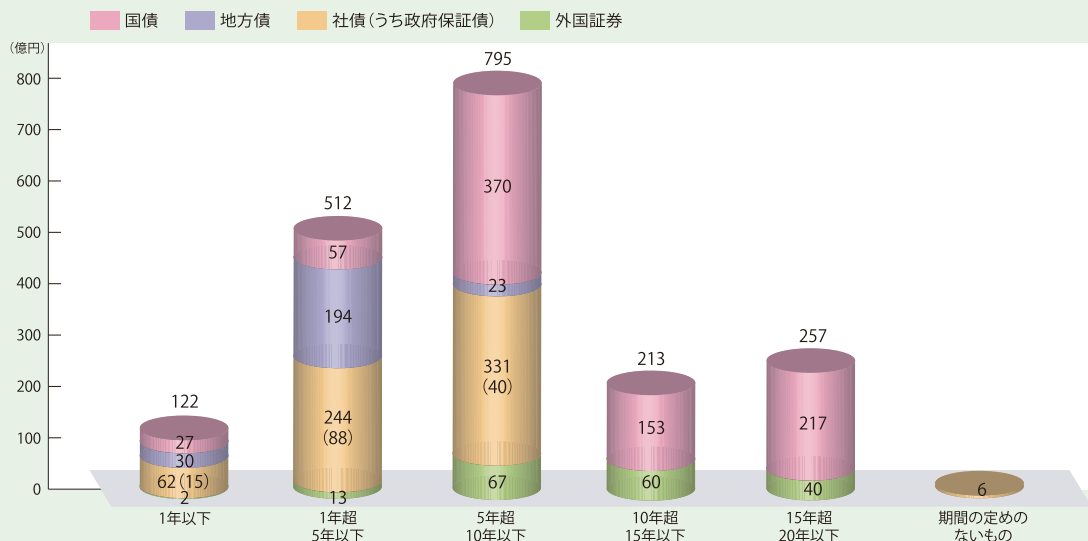
## ●有価証券の種類別の評価損益

(平成27年3月31日現在)



平成27年3月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。すべての種類で評価益が出ており、評価損はほとんどありません。

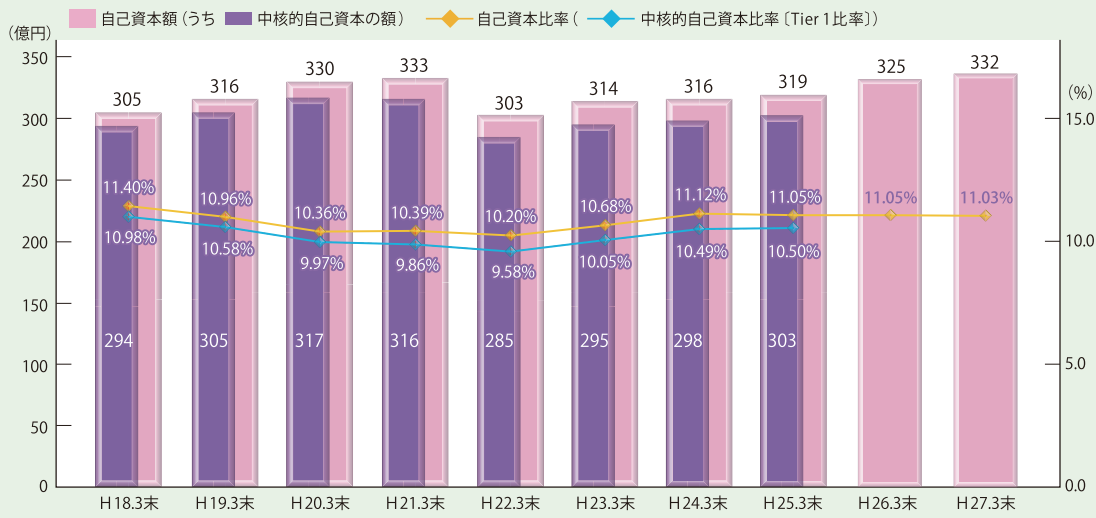
## ●債券(償還までの期間別に見た残高)、平成27年3月末現在



有価証券のうち株式を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。収益向上のため、期間10年超20年以内の国債や外国証券にも投資しています。

## ●自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)

\*平成25年度以降は新告示に基づく開示を行っています。



	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末	H27.3末
リスクアセット	2,676	2,883	3,185	3,210	2,976	2,941	2,845	2,887	2,946	3,011

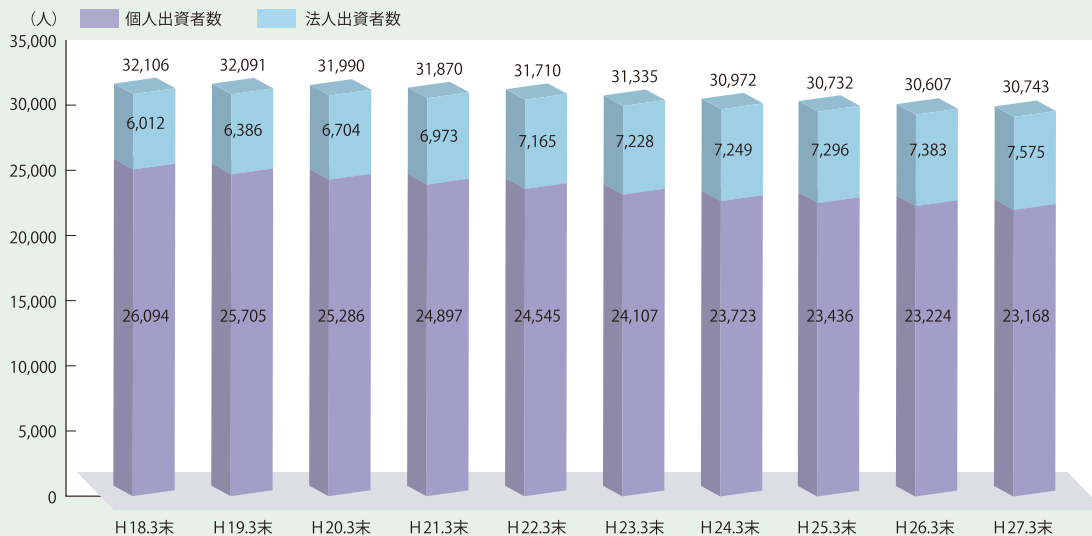
自己資本比率は、平成27年3月末で11.03%となりました。  
 〈にっしん〉の自己資本比率は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

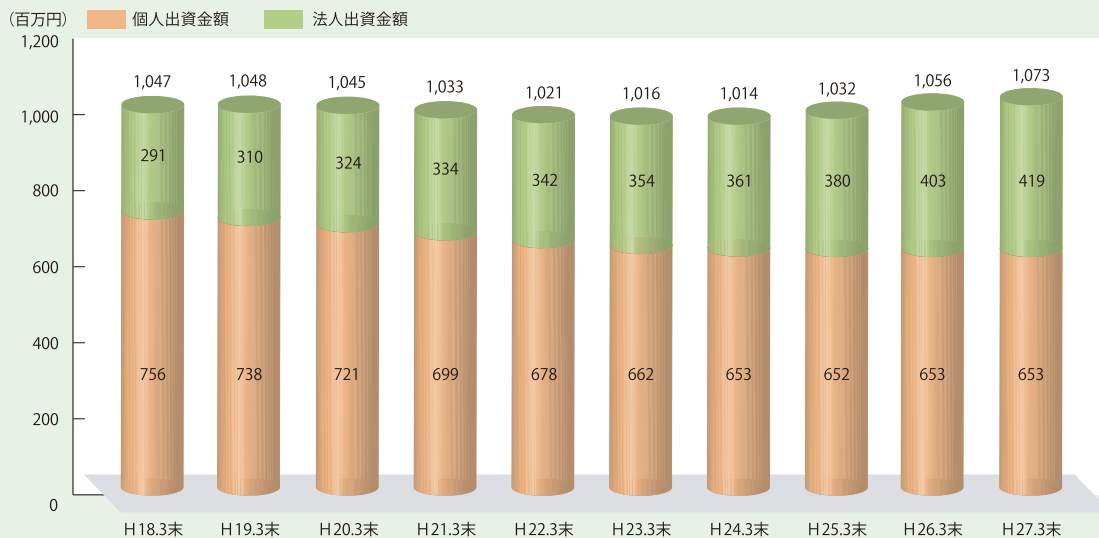
なお、自己資本比率の算出方法を定めた基準(平成18年金融庁告示第21号)が平成25年3月8日に改正されたため、平成24年度以前は旧告示に基づく開示、平成25年度以降は新告示に基づく開示を行なっているため、平成26年3月期から中核的自己資本比率は記載していません。

お詫び：H26.3.末の自己資本、自己資本比率、リスク・アセット等に計算相違がありましたので訂正させていただきます。

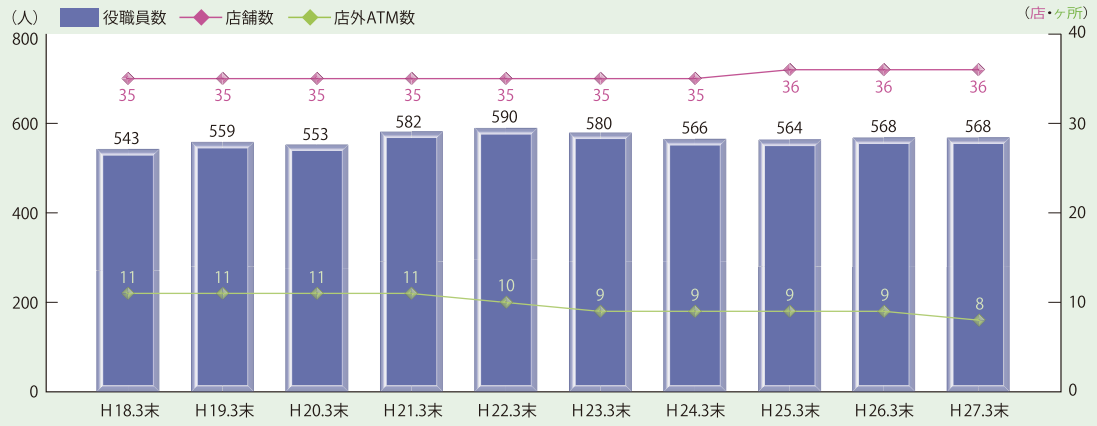
## ●会員数



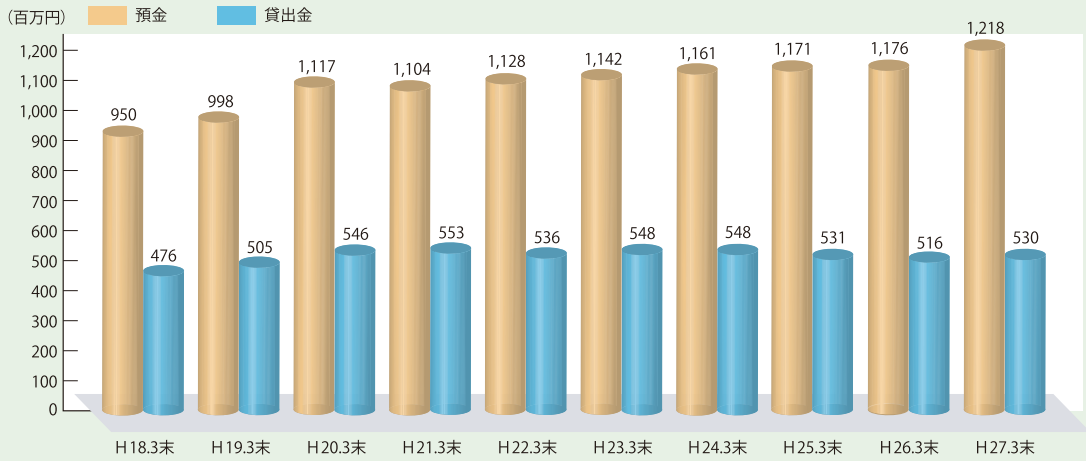
## ●出資金額



### ● 役職員数と店舗数

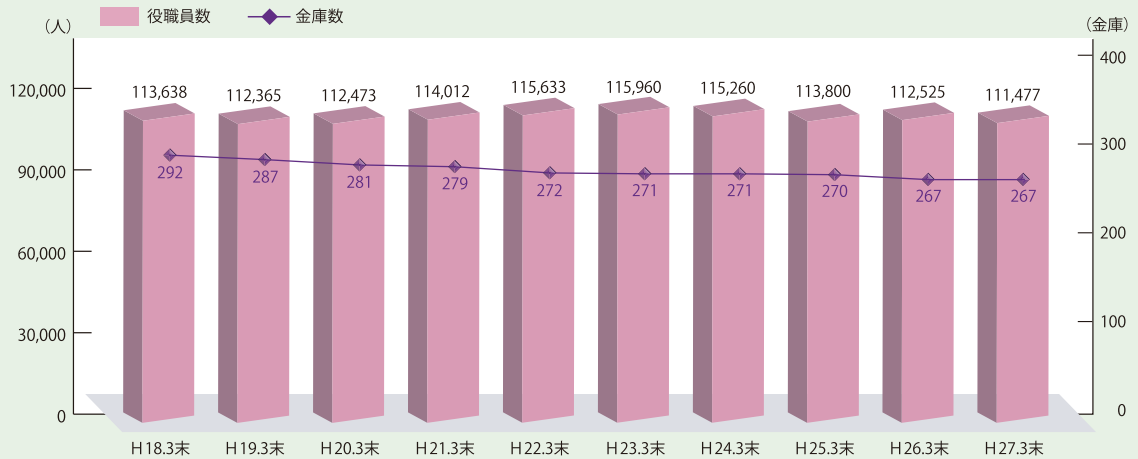


### ● 役職員1人当りの預金と貸出金



## 信用金庫業界の動き

### ● 全国の信用金庫役職員数と金庫数



### ● 全国における信用金庫の預金と貸出金

